
「科学技術論」を見直す連続講座

- 最終更新日 ()

「科学技術論」を見直す連続講座 第1期1990年代後半以降、日本の科学技術論の研究配置の中に「社会技術」を唱導する集団が現れた。その主要な関心は、モード論（社会貢献論）、リスク論（安全・安心論）、科学コミュニケーション論（科学技術への市民参加）、科学技術リテラシー、科学技術者倫理などであり、これらはモード論（社会貢献論）を核にしてつながり、ひとつの構造を成している。そして、「社会技術」の特徴は、社会貢献の対象である「社会」を新しい市民社会へと移動した点にある。しかし、この「新しい市民社会」は「新自由主義的市民社会」の疑いがある。今回は、科学技術論の日本における展開のひとつである「社会技術」の功罪を考える。日時 12月5日(金)、12月12日(金)、12月19日(金) 全3回各回18:00-20:00 場所 国士舘大学 梅ヶ丘キャンパス 34号館2階会議室（12日は3階会議室）講師 木原英逸（国士舘大学）テーマ12月5日 「社会技術」という問題12月12日 新しい市民社会と新自由主義12月19日 「公共（の利益）」の変質定員がありますので、参加される方は、11月30日までに国士舘大学・木原研究室へ、その旨、お名前、ご所属、お仕事の分野、簡単な参加動機とともにメールをお願いします。kihara[at]kokushikan.ac.jp（[at]を@に変えてください）全3回参加できる方が優先されますが、部分参加も可能ですので、その旨ご連絡ください。主催 科学技術論研究会